

30分 AI活用オンライン相談 | 簡易まとめ

ご相談内容

実行管理を人手に頼らず AI で自動化できないか検討したい。ただし現場の判断や調整が多く、何から着手すべきか分からない。AI 導入で失敗しない現実的な進め方を知りたい。

実行管理を、いきなり AI に任せるべきではない。

まず人の計画・調整を「そのままデジタル化」し、AI が学習できる「正解データ」を蓄積するのが先。

なぜ「AI 先行」は失敗しやすいのか

現場の調整ルールは数式ではなく暗黙の判断で成り立っている。判断がデータ化されていない状態で AI に計画を立てさせても実用に耐えない。問題は AI の性能ではなく、人の判断が説明できていないことにある。

採るべき現実解：ハイブリッド型

① 人が計画を立てる（当面の主役）

ホワイトボードや Excel の実行管理をデジタル（ガントチャート）に置き換え。計画を作るのは引き続き現場リーダー。

② システムの役割（今すぐ）

見える化・一覧性の確保。調整履歴・変更履歴の記録。「人がどう判断したか」を残すことが最大の価値。

③ AI の役割（試行フェーズ）

初期は「空き工程の検索」「条件整理」など支援業務に限定。AI はまず実行管理を手伝う「部下」として使う。

この方針で得られる経営メリット

- 現場業務の混乱を防げる
 - 「AI 導入が失敗する」リスクを回避できる
 - 日々の業務そのものが将来の AI 最適化に向けた教師データになる
- 結果として、AI に振り回されない実行管理基盤が構築できる。

次の一手（社長への宿題）

1

現場に確認

なぜこの順番で流しているか／割り込み時の優先基準

2

判断を分類

「変えてはいけないルール」と「状況次第のルール」に分ける

3

AI と対話で整理

「質疑」ではなく「対話」で思考を言語化する

実行管理を AI に任せたいなら、

まず「人がどう考えて調整しているか」をそのままデジタルに残すことが最優先。

※ 本まとめは特定ツールやシステム導入を目的とせず、社長自身の思考整理・判断力向上を目的とした内容です。